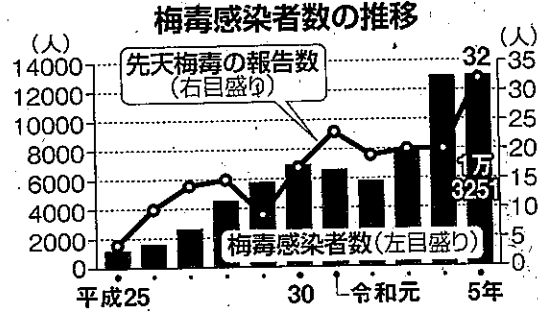


梅毒1万3251人 最多更新

国立感染症研 「先天」胎児も急増

今年の梅毒感染者数が1万3251人（19日現在）となり、現在の調査方法で統計を取り始めた平成11年以降で最多となったことが28日、国立感染症研究所のまとめで分かった。梅毒感染した妊婦から胎児にうつる「先天梅毒」と診断された子供も32人（10月4日現在）と同年代以降で最多。若年層を中心に感染が拡大しているともみられ、警戒が高まっている。

感染研によると、19日現在の都道府県別の梅毒感染者数は、東京都（3244人）▽大阪府（1760人）▽福岡県（829人）▽北海道（607人）一ととなっている。梅毒感染者は23年ごろから増加傾向にあったが、令和元年と2年に一



※国立感染症研究所のデータを基に作成（令和4、5年は速報梅毒感染者数の5年は11月19日現在、先天梅毒の5年は10月4日現在）

巨減少。だが3年以降再び増加に転じ、4年には1万2966人（速報値）となった。近年は男性が20〜50代、女性が20代に多くなっている。梅毒は主に性的接触により、梅毒トレポネーマという細菌が原因で発症し、体にしこりや発疹が出ることもある。抗生薬

梅毒は性風俗店などで感染するケースが多いとみられるが、直接関係がない感染も多数報告されている。妊婦から胎児に母子感染する「先天梅毒」も増えており、専門家は妊娠前の検査と必要に応じた早期治療の重要性を強調する。

「性風俗産業ではない仕事の方、あるいは、学生や主婦の方には、検査が行われない中で感染が広がっている」。東京都医師会の川上一恵理事は11月の定例会見で、令和4年の都の梅毒感染者3677人のうち性風俗産業の従事者が2割にとどまった状況を説明。感染拡大が続く現状に、危機感をあらわにした。

梅毒は感染から1〜4週間後ぐらいに、性器や口など感染した部分にしこりや潰瘍ができることがある。第1期症状という。感染から4〜12週間後ぐらいには、バラ疹などと呼ばれる赤い発疹が体や手足など全

妊娠前に検査 母子感染防げ

身に表れることがあり、第2期症状と呼ばれる。

性感染症皮膚科のあき「そねだき古林診療所」（大阪市）の古林敬一医師によると、梅毒患者は第1〜2期の症状や、感染不安から受けた血液検査で陽性を示すなどして治療につながることも多い。だが、症状の出方には個人差がある。

古林氏は「第1〜2期は症状は無治療でも自然に治癒することがある。症状がない人もおり、無自覚の

梅毒患者の主な症状

感染から1〜4週間後ぐらい（第1期症状） ■性器、口など感染した部分にしこりや潰瘍ができることがある

感染から4〜12週間後ぐらい（第2期症状） ■体や手足など全身に赤い発疹（バラ疹）が表れることがある

※第1〜2期に表れる症状は、無治療でも自然に消えることがある

